

# マダガスカルの淡水産および陸産貝類相 (I)

東 良 雄

## Freshwater snails and Land snails of Madagascar (I)

Yoshio Azuma

### はじめに

筆者は1994年7月28日～8月7日および1995年8月3日～8月16日にかけてマダガスカル島をおとずれ、その特異な生物相を観察する機会が得られた。この時、各地(図1 a)で淡水産貝類や陸産貝類を見る機会にもめぐまれた。しかし時期が乾期であったこともあり生きた貝にはほとんど出会うことがなかった。以下に各地で見られた貝類について報告したい。なお、各旅行中にお世話になった諸氏に感謝の意を表する。

### マダガスカル概観

マダガスカルはアフリカ大陸の南東のインド洋上に位置し(図1 b)、南回帰線が南部を横切る南半球にある島である。その大きさは南北約1580km、東西(最大幅)約560km、面積587000km<sup>2</sup>の世界第4の島である。面積は日本の約1.6倍もある。首都は島の中央部にあるアンタナリボ(標高1250m)。地勢は大きく3つに分けられる。すなわち、中央高原地帯(先カンブリア時代の古い地質)と東部海岸平野地帯と広大な西部海岸平野地帯である。また、植生も中央高原地帯を境にして東部は熱帯雨林、西部は乾燥林、西南部は半砂漠地に大別される(図2)。マダガスカルの大地は約2億年前に存在したゴンドワナ大陸の一部であり、後にこの大陸が分裂して現在の地形となったと考えられている(図3)。約6500万年前(中生代の終わり)にはアフリカ大陸から分離し、それ以来ずっと隔離されていたので生物の独自進化が進み、多くの固有生物(植物種の約85%が固有)が出現した。例えば、バオバブ(アフリカ大陸には1種のみ、マ

ダガスカルには8種分布)、ディディエリア科植物(特産の科で4属11種分布)、カメレオン(世界の80種中、約半数が分布)、原猿類(23種内外分布)、シーラカンス(生きた化石といわれコモロ島近海に分布)、エビオルニス(約500年前にはまだ生息していたダチョウのような巨大な鳥、おそらく世界最大の卵を産卵していた)などである(図4～8)。陸産貝類でも Pomatiasidae 科と Acauidae 科に多くの種類が記録されている。次にマダガスカルで見た淡水産、陸産貝類について解説する。

### マダガスカルの淡水産貝類

1. *Lanistes grasseti* (Morelet, 1863, *Ampullaria*)  
Family Ampullariidae (図9)

殻高42.2～37.1mm, 殻径39.9～37.0mm, 5¼～5%層。殻は左巻。ふたは角質。螺塔は高く、円錐形。各螺層はよくふくれる。殻表は黄褐～黒褐色の殻皮でおおわれる。螺層には強い縦肋があらわれる。アフリカのモザンビークに分布する *L. ovum* の一地方型ともいわれる。

モロンダバの *Adansonia grandidieri* (水辺近くに生息するバオバブ)の林周辺の水辺より採集。

分布: マダガスカル南西部の低地。

*Lanistes* 属の貝は左巻種でフタは角質、マダガスカルとアフリカのナイル川流域、ズールーランド、アンゴラ等に約19種分布。分布の中心は西アフリカと中央アフリカ、殻の形より3亜属に分けられている。

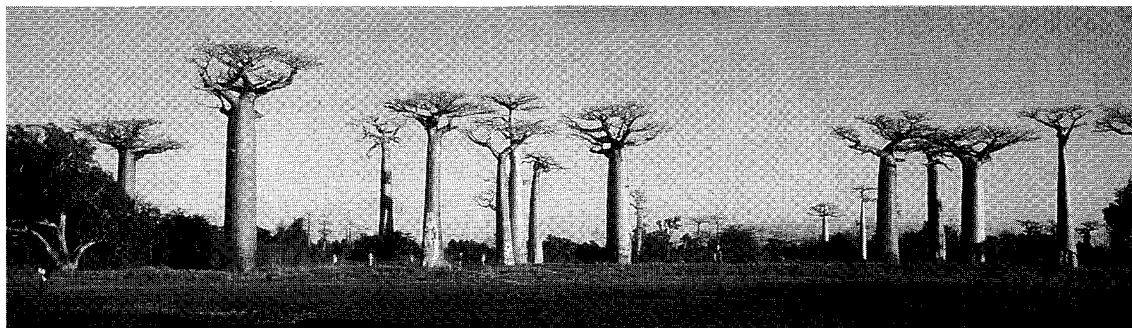


図4 *Adansonia grandidieri* の並木, (モロンダバ, '95. 8. 8.)

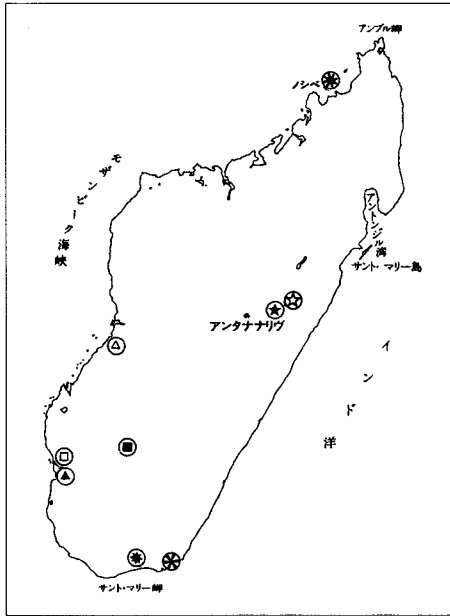


図1 a マダガスカル島の主な訪問地

- シベノ
- ⊗ ペリネ
- ⊕ アンダシベ
- ⊙ モロンダバ (ムルンダヴァ)
- ⊖ イサロ
- ⊙ イファティー
- ⊕ チュレアル
- ⊗ ベレンティー
- ⊙ フォート・ドーファン (フォル・ドーファン)

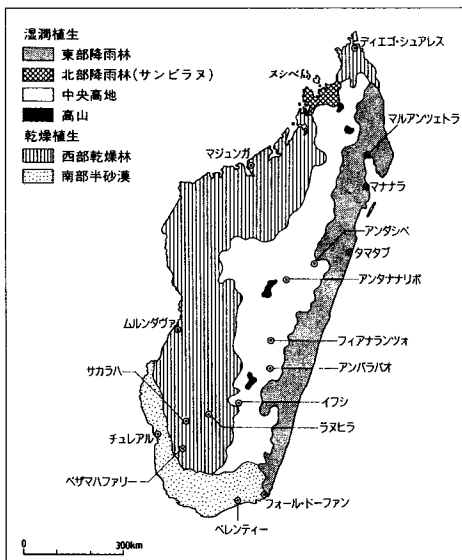


図2 マダガスカル島の殖生図 (マダガスカル自然紀行より転写)

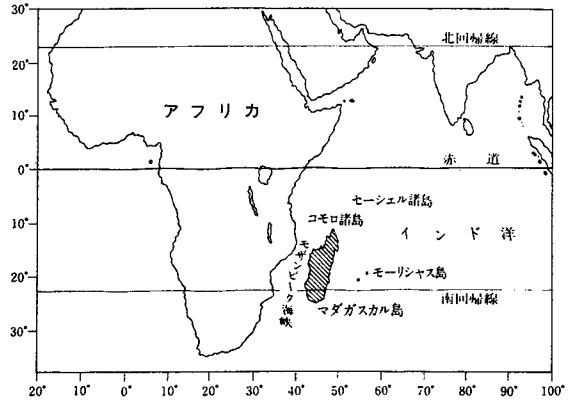


図1 b マダガスカル島の概念図 (マダガスカル自然紀行より転写)

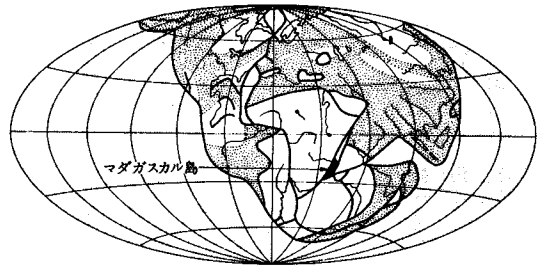


図3 約2億年前の大陸 (マダガスカル自然紀行より転写)

2. *Melanatria fluminea* (Gmelin 1767, *Buccinum*)  
Family Thiaridae トゲカワニナ科 (図10)

殻高65.6~63.3mm, 殻径25~22.6mm, 5+a~9+a層。  
殻は右巻き, 通常殻頂部は浸食されている。殻は細長い塔状。殻は黒褐色の殻皮でおおわれる。細な螺肋が表れる。縦肋も表れるが, 螺層の肩に突起状となって表れる。殻口唇は深い切れこみを伴って強く湾曲している。

フォート・ドーファンにて採集。

分布: 北東マダガスカルの自然林の河川に生息。

*Melanatria* 属はマダガスカル固有属で2種。殻は大型で細長い円塔形。通常殻頂部は欠けている。螺層の表面はなめらかであるが, 螺層の肩に突起状彫刻などがみられる。殻口唇は強く湾曲している。

3. *Ceratophallus natalensis* (Krauss, 1848, *Planorbis*)

Family Planorbidae (図11)

殻高1.4mm, 殻径7.5mm, 5層。

殻は右巻。小型で扁平な円盤型。螺層はしだいに増大し, 各螺層は中高で, 体層周縁の殻底側には, 鈍い角がある。体層の終端はわずかに下降する。臍孔は広い。

モロンダバの *Adansonia grandidieri* の林周辺の

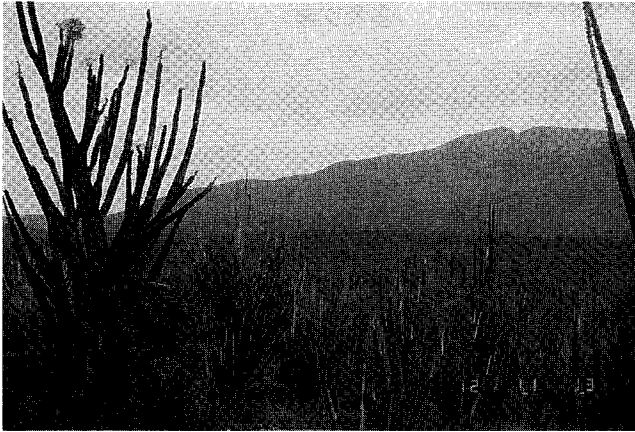


図5 *Alluaudia procera* の森 (フォート・ドーフアン〜ベレンティール間, '95. 8. 12.)



図6 *Chamaeleo parsonii* (最大種). 体長約60cm, (アンダシベ, '95. 8. 6.)



図7 *Lemur macaco* クロキツネサル, 頭胴長約40cm, ♂ (ノシベ近くのノシコンバ島, '94. 8. 3)

水辺より採集。

分布: 北エジプトの高地, 南アフリカのケープ地方南部, ただし熱帯地域の海岸ではまれに見つかる。チャド湖, バンジービル, ザイールのカタンガ, ロードシアのサリスプリー。

*Ceratophallus* 属は通常, 殻径8mm以下の殻を有する。螺層は円いが, その縁は角ばるか竜骨状となる。アフリカに分布する。*C. natalensis* のみ広域に分布する。他種は湖に限って分布。

4. *Bulinus obtusispira* (Smith, 1882, *Physa*)

Family Planorbidae (図12)

殻高7.9~8mm, 殻径4.9~5mm, 2~4+a層。

殻色は半透明で蒼白色, 光沢がある。螺塔はやや高い円錐形。殻頂部はやや鈍頭。やや規則的に螺状彫刻が表れる。左巻種。水田などに生息する。アンダシベ近郊にて採集。

分布: マダガスカル西方地域に広く分布

*Bulinus* 属の殻は左巻。螺塔はやや高く殻径より殻高が高い。螺層は一様に増大するが, その周縁には鈍い角ばりやまれに竜骨状となる。アフリカとインド洋の諸島より約30種知られる。さらにイベリア半島, 南西アジア, 地中海地域にも分布する。

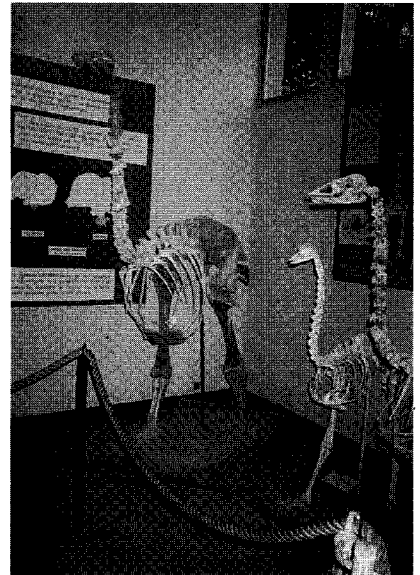


図8 *Aepyornis maximus* (最大種, 体長約2m) の骨格標本, チンバザザ動物園内, '95. 8. 5.

(1995年1月にいっしょに展示されていた卵が盗まれたという)

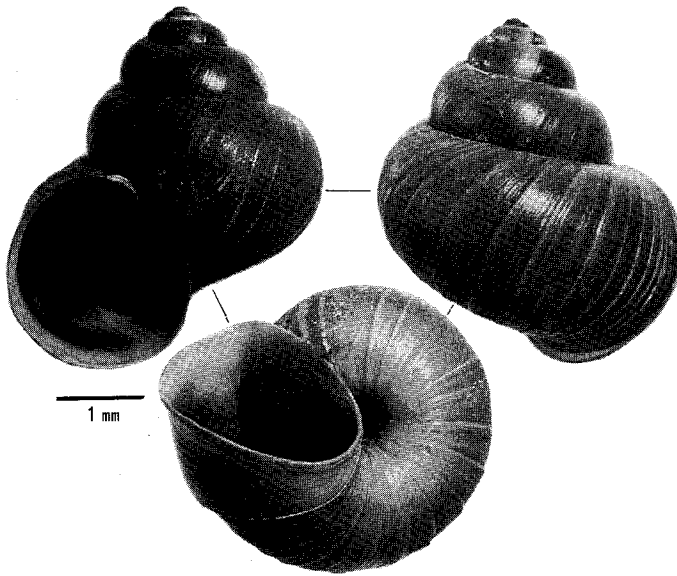


図9 *Lanistes grasseti* 42.2×39.9mm, 5 + 1/2層. '95. 8. 7.

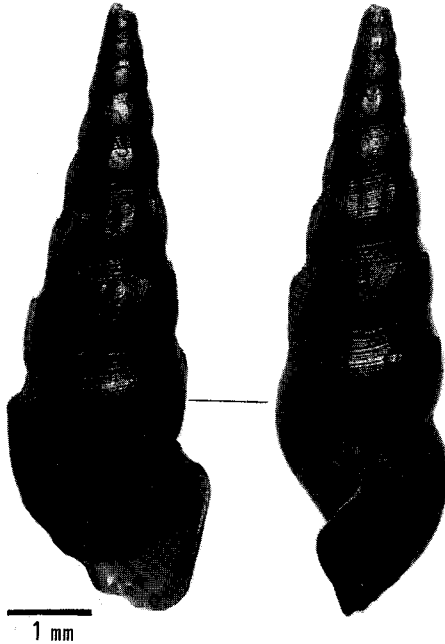


図10 *Melanatria fluminea* 65.6×25mm, 9 + α層. '94. 7. 30.

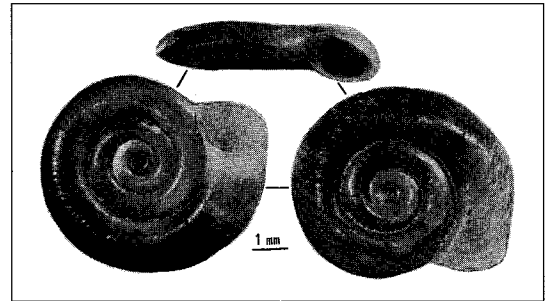


図11 *Ceratophallus natalensis* 1.4×7.5mm, 5層. '95. 8. 7.

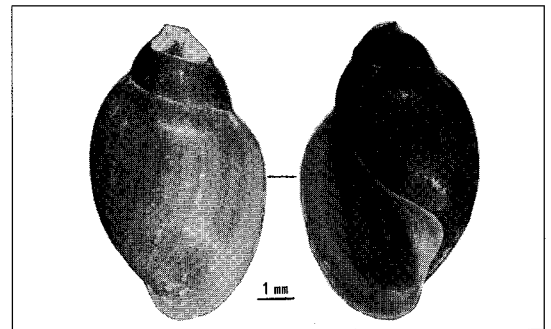


図12 *Bulinus obtusispira* 7.9×5mm, 4 + α層. '94. 8. 1.

### 参考文献

- Brown, D. S. (1980) *Freshwater Snails of Africa and their Medical Importance* 487pp Taylor & Francis Ltd. London
- 近藤典生 (1984): 『マダガスカル不思議な“大陸”』  
*Quok* 12 vol. 3, 22-35
- 湯浅浩史 (1992): 『第七の大陸マダガスカル島の生きとし生けるものの不思議を訪ねて』 測量 4月号, 20-25
- 湯浅浩史 (1995): 『マダガスカル異端植物紀行』 181pp 日経サイエンス社 東京
- 山岸 哲 (1991): 『マダガスカル自然紀行』 209pp 中公新書 東京